

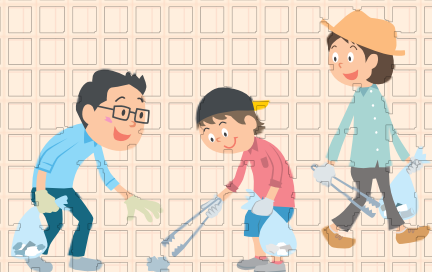
環境部会 年末市内一斉清掃

**市内全域で、自治会・老人クラブなど379団体23,024人が参加！
皆さんの力で、市全体のごみ収集量は、48.3トン(収集車両延べ39台分)！**

年末市内一斉清掃が、昨年12月7日(日)に市内全域で実施されました。セレモニーを行った後、(株)ハウズビルシステム、西日本高速道路エンジニアリング関西(株)、西日本高速道路ファシリティーズ(株)、(株)ジェイコムウエスト、第一生命保険(株)、(株)資生堂 大阪茨木工場、ヴェオリア・ジェネッツ(株)、構成団体、市職員、本協議会役員等237人がJR・阪急両駅周辺等の主要道路の清掃を実施しました。

また、構成団体である自治会等については、今回、379団体、23,024人が参加されました。ありがとうございました。なお、今回のごみ収集量は48.3トン(収集車両延べ39台分)でした。

今後も、市民憲章の「環境をととのえて 美しいまちをつくりましょう」の実践活動として、清掃活動や緑化推進などに取り組んでまいりたいと思いますので、皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。



年末市内一斉清掃用ごみ袋の協賛金についてご協力をいただきありがとうございました。

年末市内一斉清掃実施にあたり、以下の28団体・企業から協賛金をいただきました。ご協力いただきました協賛金は77万円で、環境にやさしいバイオマス製のごみ袋25,000枚を作成し、清掃実施自治会・老人クラブへ配布するとともに、当日の清掃活動にも使用し、有意義に活用いたしました。

協賛にご協力いただいた団体・企業

茨木商工会議所、茨木市商業団体連合会、茨木市委託ゴミ業務品質向上協議会、(一社)茨木青年会議所、茨木フェスティバル協会、茨木オーライオンズクラブ、ロータリークラブ(茨木・茨木東・茨木西)、茨木ローズライオンズクラブ、ゴウダ(株)、橋本食糧工業(株)、北おおさか信用金庫、日東電工(株)、エスケー化研(株)、(株)掛谷工務店、日本たばこ産業(株)、(株)神戸製鋼所、(株)吉野工業所、東洋製罐(株)、大和製罐(株)、大和運送(株)、早稲田大阪高等学校、追手門学院大学校友会将軍山会、藍野大学、立命館大学、梅花女子大学、茨木市農業振興団体連合会・茨木市花卉園芸振興会(敬称略)

★本協議会では、協賛金を募集しております。協賛金のお申込は、事務局(茨木市・地域コミュニティ課：072-620-1604)まで、お問い合わせいただきますようお願いいたします。



総務部会 全国憲章運動推進協議会 全国研修会2025佐倉 参加報告



昨年11月15日、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館にて、「こどもたちに明るい未来を」をテーマに、全国研修会が開催されました。チベット出身の音楽家・バイマー・ヤンジン氏による記念講演が行われ、自身の生い立ちやチベットの教育環境改善のために学校建設活動を行い9つの小学校と1つの中学校を開設したお話などがありました。

他にも京都市、水戸市、佐倉市から、市民憲章を推進する協議会と地元自治会が共同して「子育て支援事業」を実施した事例発表がありました。全体を通してシンプルかつ主催自治体の負担軽減が感じられる内容となっていました。

風習部会 自転車マナー・交通マナースクール

「自転車マナー・交通マナースクール」を昨年5月14日に東小学校、11月5日に水尾小学校、11月12日に福井小学校において、日本自動車連盟(JAF)の協力のもと開催しました。

JAFの皆さまには、自動車を持ち込んでいただき、自動車の運転手から見た死角や制動等の実験、また、安全な自転車マナーを教えていただきました。車はすぐには停まらないこと、運転手には死角が多くあることなど、学ぶことがたくさんありました。参加した子どもたちは、自転車の交通ルールに関するクイズに答えたり、交通マナーを守ることの大切さをしっかりと学んでいました。



風習部会 「安全・安心まちづくりの日」キャンペーン

「安全・安心まちづくりの日」キャンペーンを昨年9月11日にイオンタウン茨木太田、10月15日に阪急茨木市駅前周辺、11月11日と今年の1月13日にアル・プラザ茨木店、12月11日に平和堂真砂店において、防犯協会と合同で実施しました。当日は、自転車前かごカバーや特殊詐欺防止に関する啓発グッズ等を配布しました。場所によってはすぐにグッズがなくなってしまうほどたくさんの方が来られ、特殊詐欺被害防止等の啓発を行うことができました。

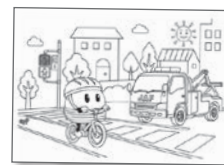


「動画で学ぼう 自転車の交通安全」チラシを配布しました!

昨年11月5日の水尾小学校、11月12日の福井小学校での「自転車マナー・交通マナースクール」および、11月11日のアル・プラザ茨木店での「安全・安心まちづくりの日」キャンペーンにて、JAFの方と一緒に「動画で学ぼう 自転車の交通安全」チラシを配布しました。チラシの表面には、自転車で道路を走行するときに何に注意しないといけないかなどの動画が見られるQRコードがあり、裏面はぬりえになっています。

子どもたちは興味深々な様子でチラシを受け取っていました。

右記のQRコードから動画をご覧いただけます! ▶



▶ 風習部会の取り組みについて

風習部会長 浦野 祐美子

「自転車マナー・交通マナースクール」では、交差点や曲がり角では一旦停止して左右確認をするといった正しい自転車の乗り方や注意点を実際に見て学びました。交通量の多い地区では、特に気を付けてマナーを守り、学んだことを活かして欲しいと願います。

「安全・安心まちづくりの日」キャンペーンでは、最近巧妙な手口による詐欺が増えていることへの注意喚起や、自転車前かごカバーの取り付けなどを行いました。

住みよいまちづくりにつながるよう、今後も活動を広めたいと思います。

老若男女問わず活躍できる! 茨木市なぎなた連盟

本協議会の構成団体であるNPO法人茨木市体育協会の「なぎなた連盟」で活躍されている寺崎さんに取材を行いました!

Q1 NPO法人茨木市体育協会について教えてください。

A1 寺崎さん 昭和26年(1951年)に発足し、スポーツ・レクリエーション活動の普及推奨に努めるとともに、関係機関との連絡調整を図り、生涯スポーツの振興に寄与することを目的に活動しています。現在、31団体、3万人を超す組織に発展しています。

Q2 「茨木市なぎなた連盟」には何人所属していますか?

A2 寺崎さん 春日丘小学校体育館と茨木市民体育館で活動しており、合わせて33人が所属しています。

Q3 なぎなたについて教えてください。

A3 寺崎さん 平安時代の戦の道具でしたが、江戸時代に精神面の鍛錬に重きを置くようになりました。平時の家を守る「女薙刀」としても発展し、男性の武術から女性の武術としての地位を確立したと言われています。試合で使用するなぎなたは、長さは2m25cm、重さは約650gあります。相手を倒すのではなく、礼儀や感謝の心を養い、心身の調和と人間形成を目的としています。

Q4 キッズスポーツフェスタに参加されたり若い方への発信が活発だという印象ですが、周りからの反応はいかがですか?

A4 寺崎さん キッズスポーツフェスタを通してこどもの入会が多くなってきています。体験していただくことで、なぎなたについても知ってもらえます。

Q5 海外への普及活動などはされていますか?

A5 寺崎さん はい。国際なぎなた連盟があります。アメリカ、カナダ、ベルギー、フランス、ドイツなどにも普及しており、持ち回りで世界選手権大会が開催されています。

寺崎さん(なぎなた歴33年)に加え、秋保さん(なぎなた歴16年)、
首藤さん(なぎなた歴4年)にも、なぎなたの魅力などを聞きました!

Q6 なぎなたをはじめてきっかけを教えてください。

A6 寺崎さん 第2子が中学生になり、少し時間と気持ちに余裕ができた時にテレビ番組でなぎなたを見て「カッコイイ!」と思い、市に問い合わせたところなぎなた連盟を紹介してもらいました。

秋保さん 下のこどもが幼稚園に入園し、少し時間ができたことで何か始めたいと思った時に、近所のなぎなた教室に参加したのがきっかけです。

首藤さん 茨木市のキッズスポーツフェスタで体験して面白かったからです。お父さんから「あいさつとか礼儀が身につくからいいと思う」と勧められました。

Q7 なぎなたの魅力はなんですか?

A7 寺崎さん 稽古や試合で一つ前進すると次の課題が見えてくる、その成長が面白いです。

秋保さん 簡単に習得できないところが魅力です。

首藤さん 稽古が楽しいです。

Q8 今後の抱負などを教えてください。

A8 寺崎さん たくさんの人になぎなたの魅力を知ってもらい、なぎなたをする人が増えてほしいです。

秋保さん 府の大会で入賞できるように頑張ります。

首藤さん 試合でいっぱい勝ちたいです。



(写真左から)
寺崎さん、秋保さん、首藤さん、
京都ノートルダム女子大学 山下さん



「茨木市なぎなた連盟」の活動について

- 場所: 春日丘小学校体育館 毎週金曜日 午後6時30分～午後8時00分
- 場所: 茨木市民体育館 毎週土曜日 午前9時30分～午前11時30分

※詳細は、「茨木市なぎなた連盟」の
HP (<https://ibarakinaginata.client.jp/>) を
ご覧ください。

今年で創業130年!

本の魅力を発信し続ける 虎谷誠々堂書店

本協議会の構成団体である茨木市商業団体連合会の虎谷さんが経営されている「虎谷誠々堂書店」に取材を行いました!



(写真右から)
虎谷さん、京都ノートルダム女子大学 山下さん
総務部会長 寺崎さん

Q1 茨木市商業団体連合会について教えてください。

A1 茨木市内にある11の商店街・商店会が1つになって、各事業者の向上や発展をはかり、経済活動の促進や市民生活の安定に寄与することを目的としています。カレンダーの配布や、おにクルのファイル作成といった活動もしています。

Q2 「虎谷誠々堂書店」は明治28年(1895年)創業とお聞きしましたが、今では手に入らないような貴重な本などが残っていたりしますか?

A2 写真で歴史を学べる「目で見える茨木・高槻の100年」や、小笠原利孝が執筆し、昭和天皇がこどもの頃に勉強していた「普通植物図解」は、この「虎谷誠々堂書店」で作られました。どちらも現在は販売されていない貴重な本です。



Q3 昨今の書籍は電子化が進んでいますが、紙の本、そして店舗型の本屋の魅力を教えてください。

A3 かつては「虎谷誠々堂書店」も3店舗ありましたが、今は1店舗になってしまいました。大阪府内の書店も400ありましたが150に減りました。こどもの読書離れを防ぐために、第21回大阪こども「本の帯創作コンクール」が行われました。こどもたちが本を読んで感じたことを絵などで「帯」に表現するものです。茨木市内の小学生も参加し、多くの作品が入賞しました。



Q4 人気の本はなんですか?

A4 「国宝」や「成瀬は天下を取りに行く」シリーズです。映画化している本は人気が高いです。「虎谷誠々堂書店」では「デンさんのプール」が売れています。大正4年(1915年)に茨木中学校(現・茨木高校)で、川端康成や大宅壮一ら生徒と共に日本初のプールを掘った教師・杉本傳(すぎもと つたえ)の半生を描いた本です。他にも茨木市は学生が多いため参考書もたくさん置いていますし、岩波文庫や児童書など客層に合わせた幅広いジャンルの本を取り揃えています。

取材の感想

京都ノートルダム女子大学 山下 詩月さん

「茨木市なぎなた連盟」では、真剣に稽古に打ち込まれる皆さんの姿が印象的で、老若男女問わず始めることができる武道だと思いました。「虎谷誠々堂書店」で見せていただいた「普通植物図解」は、紙ならではの重厚感があり、茨木中学校のプールのお話も大変興味深いものでした。古くから伝わる武道と老舗の書店、どちらも興味深いお話を聞かせていただきました。

総務部会長 寺崎 千之さん

文化とスポーツのまち・茨木にある、「茨木市なぎなた連盟」と「虎谷誠々堂書店」について取材を行いました。取材の際、虎谷さんにお伺いした「デンさんのプール」は、最初から最後まで一気に読み進めてしまうほど引き込まれてしまいました。皆さんもぜひ一度読んでみてください!

まちづくりの友 学生編集委員大募集!!

本協議会では、楽しい紙面を一緒に作ってくれる学生を募集しています。詳細は事務局までお問い合わせください。

事務局

茨木市 地域コミュニティ課

TEL 072-620-1604

✉ community@city.ibaraki.lg.jp

右記のQRコードから申請いただけます! ▶



お ぐり はん がん みち 小栗判官道と小栗判官伝承

住みよいまちづくり協議会会計 畠山 眞悟

◆ 茨木の小栗判官伝承

倍賀の春日神社から南へ延びる道を小栗判官が土車に乗せられて通ったという伝承がある。説経節「をくり」(小栗判官)によれば、閻魔大王の情けで相模国上野が原の小栗塚から餓鬼阿弥として蘇生した小栗判官は、藤沢の遊行上人により土車に乗せられて熊野本宮湯の峰をめざすことになる。東海道を上り相模国藤沢(清浄光寺)から駿河国富士浅間神社までは上人が、美濃国青墓から近江国大津の関寺までは下女となった照手姫が付き添った。

説経節では京都東寺から鳥羽、山崎を経て摂津国に入り広瀬、芥川、太田の宿をすぎ中島、三宝寺の渡りを経て天王寺へ向かったという。この太田から中島へ至る

道筋の途中に茨木の判官道を比定できる。伝承では倍賀春日神社の松井の霊水

(一説に春日小学校のプール付近にあった。付近の小字に松井、倍賀池がある。)に小栗が浴し、霊験あらたかであった(体調が良くなったとの意か)。そこから南へ進み、奈良の杣の森(場所は不明)あたりから高槻街道、亀岡街道を進んだと考えられる。吹田市岸部の亀岡街道に面する名次(なつけ)神社には、土車を引く綱が切れたので村人が縄をなつてつないだという伝承(「縄つけ」から「なつけ」)がある。



倍賀春日神社

◆ 説経節

説経節は中世後期から江戸享保期まで形を変えながら人気を博して演じられたがその後急速に衰え、浄瑠璃に取って代わられた。説経最古の正本でも江戸寛政期(1630年代)で、中世の説経は不明ながらも、神仏霊験譚という体裁や語り口からは近世以前の古色を豊かに残している。「せつきやうかるかや、さんせう太夫、をくり、しんとく丸、あいこの若」などの五説経(不定)が著名で、なかでも「をくり」=小栗判官はスケールの大きさと劇的展開から人気が高い。中世の説経節語りは時宗の徒が圧倒的に多かったようである。

◆ 小栗判官物語の特徴とあらすじ

京都の貴顕の生まれで英雄の小栗判官と妻になる美貌の照手姫が、零落し苦難の末に復活し幸福になるという典型的な貴種流離譚である。死後に小栗は美濃国安八郡墨俣垂井の正八幡宮の荒人神となり、照手姫も結神社の契り結びの神となるので、神の本地譚でもある。

小栗はたぐいまれなる英雄だが深泥池の大蛇と契ったため常陸国へ流され、武蔵相模の豪族横山氏の娘照手姫への強引な婿入りによって横山氏により十人の家来と共に毒殺される。横山は娘も生かしてはおけぬと殺そうとするが家来により命を救われるものの、結局人買いに売られ売られて美濃国青墓の遊女屋で水仕(下女)として奉公する。地獄から蘇生し餓鬼阿弥となった小栗は遊行上人、照手姫や多くの人に引かれて熊野本宮湯の峰の湯に49日入り元の身体に蘇る。小栗は京都に戻って栄達し、青墓で照手姫と再会して常陸国で富貴万福に暮らす。



下中条町の判官道プレート



吹田市岸部の名次神社

小栗判官伝説が多く残るのは、小栗氏ゆかりの茨城県協和町(現在は筑西市)、遊行寺のある藤沢市から横山氏ゆかりの相模原市、青墓宿のある岐阜県大垣市とその近辺である。このほかでは寝物語のある滋賀県坂田郡山東町長久寺から柏原(現在は米原市)にかけては、照手が笠を献じた笠地蔵があり照手ゆかりの玉の井(白清水)や小栗判官が建てた蘇生寺があったという。小栗判官道のある茨木市、名次神社のある吹田市などは、小栗を載せた土車が通ったところとして江戸期に伝承が生まれたと考えられる。